

尊厳死 かごしま

第 19 号

発行 日本尊厳死協会 かごしま
 事務局 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町11-23
 「今村病院分院」内
 TEL 099-251-2221 FAX 099-251-2279
 URL <http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html>



新しい年を迎えて

日本尊厳死協会かごしま 会長 納 光弘

『日本尊厳死協会 かごしま』の会員数が初めて1000名を突破したという嬉しいニュースと共に2010年を迎えることが出来ましたことを、皆さんと一緒に喜びたいと思います。昨年一年間で、私達は5つの素晴らしい講演を聴くことが出来ました。2月21日には、枕崎市民会館において、サザンリージョン病院の緩和ケア病棟長の大瀬克広先生から『より良い生の延長としての尊厳死』のお話、その後場所を恒例の黎明館講堂に移して、5月10日には日本尊厳死協会副理事長の大田満夫先生から『終末期医療と尊厳死』のお話、8月29日には日本尊厳死協会かごしま理事で弁護士の池田洵先生から『私にとっての“安楽死”と“尊厳死”』のお話、そして、11月7日には大田満夫先生から『楽しく長生きするために』のお話と、日本

尊厳死協会九州支部常任理事の原信之先生から『増加するがん、どこまで治るか』のお話をお聴きすることができました。どのお話も、聴衆の皆様方から、素晴らしいお話だった、感動したとの多くのお声をいただきました。そして、講演を通して、私達のこの尊厳死協会の素晴らしい意義を確認し合う事でした。この素晴らしい会の存在を一人でも多くの鹿児島県の皆様にご存知いただき、入会していただくために、会員の皆様方のお力添えをお願いいたします。まずは、皆様方の周囲の方々へのお声がけから始めましょう！ お一人の会員がお一人を新入会員に誘っていただければ、計算上は一気に会員数が2倍に増えることとなります。この新春の夢に向かって、スタートしましょう！

第18回公開懇話会開催報告

日本尊厳死協会かごしま 理事 小鷹 芙美子

日本尊厳死協会かごしまの第18回公開懇話会は、平成21年8月29日（土）に鹿児島県歴史資料センターで開催されました。

今回は尊厳死協会かごしまの理事であり弁護士の池田洵先生による「私にとっての“安楽死と尊厳死”」について講演いただきました。生と死について、我々はあと何年生きられるか？昔と今の平均寿命をとおし、延命至上主義は最良の選択か？医療の進歩、生活レベルの向上により長命は確保されたが、それが必ずしも人間の幸せに結びつかない事態が多く発生している。生命の量から生命の質への思想転換、その一例としてWHOが健康寿命（心身ともに自立し、健康的に生活できる期間）を提唱している。そし

て延命治療の中止について、裁判の状況について、アメリカと日本の最近の例を紹介された。



* 「死」とは何か

従来の考え方は3兆候（呼吸及び心拍停止、瞳孔散大等）であったが平成21年7月13日改正臓器移植法が成立した。これによると

（ア）脳死を一律人の死とする

（イ）臓器提供は本人の拒否がない限り、家族の同意で足りる

となった。このことは延命治療拒否の絶対要件に本人の明確意思を要するという見解（代行判断の否認）があるが（イ）の考え方は今後大きな影響を与えると思う。先生はご自身の体験から延命治療に伴う迷いと決断について、病者の近くで生活を共にした者でないと分からない苦しみ、そして残された者の心の重圧を話された。

* 尊厳死について

- ・ 尊厳死とは、人工延命治療を拒否し、患者を自然に死なせること
- ・ 背景……あまりにも進歩した無機質的な人工延命技術の開発・進歩
- ・ 形態……鎮痛剤継続投与による苦痛の緩和・

除去・積極的延命治療を差し控える

・ 本人の意思について

(1) 延命治療中、

本人の意識が明瞭であるケース

(2) 延命治療中、

病者の意識は不明確・不十分であるが、延命治療拒否が事前に書面化されているケース

(3) 延命治療中、

病者の意識も不明瞭で、且つ事前に意思が書面化されていないケース

（尊厳死の最大の論点）

・ 代行判断について判断基準がむづかしい。

（少なくとも同居に近い状態であるか、病者が最も信頼を寄せている者で足りるか？）

最後に、末期医療・介護の現場を体験したことのない人が、頭の中だけで理屈を組み立てて断定的な意見（特に病者の生きる権利・弱者の生きる権利）を述べていいのか？もう少し謙虚であるべきではないかと申し述べられました。

充実した九州支部21年度秋期公開講演会

日本尊厳死協会かごしま 理事 吉國 久子

日本尊厳死協会九州支部21年度秋期公開講演会が11月7日（土）秋晴れのなか、鹿児島県歴史資料センターにて開催されました。まず、「自分らしい生き方と死に方を求めて」のビデオ放映で会場を暖め、納会長の開会のあいさつで講演開始となりました。納会長は尊厳死協会の果たす役割の大切さを訴えられ、今年会員が1000名を突破したことが伝えられました。講演Ⅰは「増加するがん、どこまで治るか」日本尊厳死協会ふくおか会長原信之先生、講演Ⅱは「楽しく長生きするために」日本尊厳死協会副理事長・九州支部長大田満夫先生とどちらももっと多くの方々に聞いてほしい内容でした。休憩をはさんで活発な質疑応答のあと、松下かごしま副会長の閉会のあいさつで幕となりました。

【講演Ⅰの要旨】

がんで亡くなる方や罹患率など年々増加している。日本で100万人の方が亡くなる中、3分の1ががん死という時代になってきた。50年前と比べると約4倍にもなっている。現在は年間53万人ががんと診断されている。具体的に部位別（肺・胃など）や年齢別、死亡率または性別など、わかりやすいグラフを用いて説明された。今後も増加が予想され、二人に一人はがんになる時代が来ていること、アメリカと比較し

ても日本の検診率の低さなどもがん死亡の増加に関係していることが指摘された。

次に、がんは遺伝子の病気であること、がんの発生、がんの特徴、診断過程や検査法、さらに治療についても詳細に説明された。現在では治療の進歩により必ずしも不治の病ということではないが、やはり早期の発見が望まれ検診の必要性を示唆され、禁煙と食事に気をつけることでかなり予防できることを強調され最後にがん予防の具体的な生活態度について説明されました。



【講演Ⅱの要旨】

医学的に考えられる老化防止法（若さを保つ

秘訣)の一つとして脳の活性化があげられる。脳の働きを良くする方法として①問題に直面しても逃げない、あれこれ考えてみる②良い書物を読む③情報を選択して取り入れる④未知の分野にも目を向ける⑤いい友人を持つ⑥特技や趣味を持つ⑦自分の意見を正確に相手に伝える⑧多くの人と話し合う⑨歴史に学ぶ(ある書籍参照)等説明された。

認知症になる危険度として⑨の項目を挙げ、詳しく説明され、その予防法について⑩の項目を挙げられ、その中でも運動することが若返りにつながると述べられた。

早死にしないためにはたばこは絶対やめるこ

と、食事と運動が大きな要素であることが重要であることを強調された。

二つの講演とも、専門的なことをわかりやすくユーモアを交えて説明され、すぐ明日からの生活に役立てることができるとの内容の講演をしていただきました。

当日参加された方々のアンケートでは、①複雑な専門用語やデータをカラフルな画像でわかりやすく解説していただき時間がもう少しほしいような有意義な時間でした。

②もっと多くの市民に聞いてもらいたい素晴らしい内容だった、など多くのご意見をいただきました。

九州支部21年度秋期公開講演会アンケート集計から

- 参加者 63人 ●アンケート 39人
- 会員 27人 ●非会員 12人
- 男性 11人 ●女性 28人
- 年齢 ・40歳未満 2人
 - ・55歳～64歳 10人
 - ・65歳～74歳 15人
 - ・75歳以上 12人
- 鹿児島市内 50人 ●鹿児島市以外 13人

【感想】

1. 自己管理の大切さを再認識しました。
2. 複雑な専門用語やデータをカラフルな画像でわかりやすく解説していただき時間がもう少しほしいような有意義な2時間でした。
3. 具体的のがんに対する認識が変わりました。
4. サプリメントはやめようと思いました。散歩は時間を見つけて続けたいです。60歳過ぎでのBMIは参考になりました。
5. 最高でした。体験と具体的な説明で、明日よりさらに気をつけようと思いました。
6. とても参考になるお話が聞けました。
7. すぐ実践出来るようにお話をうかがってありがとうございました。
8. 原信之先生の講話、実のがんのお話がよくわかりやすく、実行できるお話に感激しました。今まで、聞きました中でとても理解しやすく嬉しい限りでした。元気で長生きする秘訣を具体的にお聞きし先ず実行し、脳を活性化したいと努力します。
9. 年齢と共に運動を続けること、心の健康、夫婦、食事に気をつけて助け合って元気に生きていくことを教えられるお話でした。
10. 今回は特に具体的にお話をいただき一段と

良くわかりました。

11. 次の会報に是非紹介してほしい内容でした。
12. サプリメントのことで迷っておりました。食事をしっかりとることが一番良いことと知り3度の食事に気をつけてこれからも健康でありたいです。
13. 素晴らしい内容、わかりやすく、また何故なのかなどこんなに魅力的な内容を話されるのに感銘しました。
14. 楽しく長生きできるポイントをわかりやすく、話をしていただきとても勉強になりました。
15. 疾患についてどのようにとらえたらいいのか、予防策、気をつけることなど、とても参考になりました。食の大切さ、運動、ストレス解消など具体的で良かったです。
16. わかっていることを見過ごしていた。言われたことを実践したい。新しい知識をありがとうございます。
17. 年齢が上がるに従って学ぶ機会が少なくなるが、本日は耳、眼から情報が得られ、脳を刺激することは大変に幸せでした。たばこに関する受動喫煙の弊害についてもお話を伺いたかった。
18. がんに対する認識を新たにしました。
19. 「ライフスタイルをしっかり守る」誰でもできることを教えていただけたこと。
20. 健康を意識した生活が大切なことだと感じました。たばこはやめた方がよいと改めて感じたものの……。
21. どうやったら長生きできるかという発表があるということは、皆長生きしたいんだなと思っているものなんだと感じました。

【今後の講演会に対する意見】

1. 高齢期（75歳以上）の精神的な指標になる心理的な話を希望します。
2. 最高の講演を広く市民に聞いてもらいたいので、PR活動を機会があったら事前に打ち合わせをして実施したいです。
3. これからも積極的に会に参加したいと存じます。会員となって幸せを感じます。

4. 毎回、聴講する人が少なくもったいないと思います。もう少し何らかの形で宣伝するべきでは？
5. 笑う話も聞きたいです。
6. 聴講者が少なくて残念です（もったいない）。もっと新聞等でPRしては如何でしょうか。

----- 第19回「公開懇話会」のご案内 -----

- と き： 平成22年2月27日（土） 午後2時（開場1時30分）～4時
 ところ： かがしま市民福祉プラザ5階大会議室 鹿児島市山下町15番1号
 (TEL 099-221-6070)
 演 題： 「在宅の看取りの実践から」
 講 師： 伊藤 安男 先生（日本尊厳死協会かごしま監事） ●入場無料●

----- 平成22年度総会・公開講演会のご案内 -----

- と き： 平成22年4月17日（土） 午後2時～4時
 ところ： 鹿児島県歴史資料センター「黎明館」講堂
 演 題： 「生と死」を考える
 — 公衆衛生医60年の足跡から —
 講 師： 内山 裕 先生（日本尊厳死協会かごしま名誉会長） ●入場無料●

●「尊厳死出前講座」●

“尊厳死” “出前講座” は昨年度、7月・9月に実施いたしました。
 ご希望の団体グループの方はお気軽に事務局までご連絡下さい。

編集後記

明けましておめでとうございます。本号は大変充実した内容になりました。今年も元気で尊厳死運動の輪を広げましょう。

周りの方々には、かごしまのホームページや「尊厳死出前講座」のことも是非ご吹聴下さい。

重要なお知らせですが、この度、会の住所と電話番号などを『今村病院分院内』に変更しましたので、宜しくお願いします。（T. M.）